

鶴田 直之、(工学部)、甲斐勝二 (人文学部)、須長 一幸 (教育開発支援機構)、紺田 広明 (教育開発支援機構)  
 期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

◎----- 概要 -----◎

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのととり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ(学問的技法)を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

第1回目の合同ガイダンスの際に、受講生を4チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。ここでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎----- 到達目標 -----◎

「読む、聞く、話す、書く」能力を発揮して、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用できる(技能)

合同ゼミでは、チーム単位で根拠の有無や実現性、効果、論理性を踏まえた提案ができ、またチーム単位で表現を工夫して提案内容を発表することができ、更に論点を踏まえて的確な質疑応答ができる(技能)

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる(技能)

◎----- 授業時間外の学習(予習・復習) -----◎

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する(30分)。次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする(60分)。授業で習得したアカデミックスキルズを他の授業等の学習に活用する(60分)。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

◎----- 成績評価基準および方法 -----◎

定期試験は行ないません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容(根拠の有無、実現性、効果、論理性)と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク(協調性)をチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

◎----- テキスト -----◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎----- 参考書 -----◎

『福大生のための学習ナビ』(福岡大学 教育開発支援機構)  
 『「言葉の力」育成の手引』(福岡大学 教育開発支援機構) 佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』(慶應義塾大学出版会)  
 その他、授業中に適宜、紹介します。

◎----- 履修上の留意点 -----◎

このアカデミックスキルズゼミ I は講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミ II もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎----- 授業計画 -----◎

回 授業内容

1 合同ガイダンス(担当者全員)

2~13 「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2019年度アカデミックスキルズゼミ I 授業予定表」をWebシラバスの「添付ファイル」欄に添付しているのので、参照してください。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。なお、4名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

鶴田(情報科学)、読む：文章の構造を手掛かりに読もう、書く：批判を基に自分の意見を考えよう、話す：自分の意見を構造化して伝えよう、話す・聞く：学んだことをチームでまとめよう

甲斐(中国文学)、読む：小説を読もう・映像を読もう、聞く：他者の理解に耳を傾けよう、書く：他者の理解を踏まえて自分の考えを言葉にしよう、話す：資料と共に自分の考えを発表しよう

須長(科学哲学)、聞く：大学の「ルール」を知ろう、書く：大学と高校の授業の違いを考えよう、読む：より深く考えるための読み方を学ぼう、話す：意見交換の技術を知ろう

紺田（心理学）、読む：自己分析から自分を理解しよう、話す：自分の言葉で他者に伝えよう、聞く：他者の話を聞き視野を広げよう、書く：これからの目標をまとめよう

14, 15 合同ゼミ（担当者全員）

◎----- URL -----◎

Moodle システムサービス  
(<https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/>)

◎----- 添付ファイル -----◎

2020 年度アカデミックスキルズゼミ I 授業予 定表  
(シラバス授業予定表(火5).pdf)

アカデミックスキルズゼミ I (読む・書く・話す・聞くことのレッスン)

2020-S000009622-02

道山 治延、関口 浩喜（人文学部）、寺田 貢（理学部）、永田 潔文（理学部）

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：演習  
授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

◎----- 概要 -----◎

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのととり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

第1回目の合同ガイダンスの際に、受講生を4チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。ここでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎----- 到達目標 -----◎

入門的なアカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を活用できる。（知識・理解）

合同ゼミでは、チーム単位で根拠の有無や実現性、効果、論理性を踏まえた提案ができ、またチーム単位で表現を工夫して提案内容を発表することができ、更に論点を踏まえて的確な質疑応答ができる。（技能）

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。（技能）

以上の活動において、授業に積極的な態度で参加でき、また仲間と協調してゆく姿勢をとることができ、更に集合時間や締め切りを守るといった規律ある行動ができる。（態度・志向性）

◎----- 授業時間外の学習(予習・復習) -----◎

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する。(30分) 次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする(60分)。授業で習得したアカデミック・スキルズを他の授業等の学習に活用する(60分)。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

◎----- 成績評価基準および方法 -----◎

定期試験は行ないません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答

2020-S000009622-02

実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

内容、チームワーク（協調性）をチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

◎----- テキスト -----◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎----- 参考書 -----◎

福大生のための学習ナビ  
アカデミック・スキルズ ISBN 978-4-7664-1324-3  
新版論理トレーニング ISBN 978-4782802113 その他、授業中に適宜、紹介します。

◎----- 履修上の留意点 -----◎

このアカデミックスキルズゼミ I は講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミ II もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎----- 授業計画 -----◎

1 回 担当者全員 合同ガイダンス  
2~13 回

「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2019年度アカデミック

キルズゼミ I 授業予定表」を Web シラバスの「添付ファイル」欄に添付しているため、参照してください。詳細は第 1 回目の合同ガイダンスで説明します。なお、4 名の教員の 4 回分の講義内容は以下の通りです。

関口 (人文)、読む：文章のポイントをつかもう、話す：的確に質問しよう、話す：的確に批判しよう、書く：自分の意見を的確に表現しよう

永田 (理)、聞く：ノートを取ろう、集める：文献を集めよう、読む：文献を読もう、書く・話す：自分の意見を書いて発表しよう

道山 (法)、聞く：ノートをとろう、読む：文献を読もう、書く：ペーパーを書いてみよう、話す：意見を交換しよう

寺田 (理)、読む：ひらがなだけの文をかな漢字文に変換する、書く：視覚的な情報 (図形) を文章で説明する、話す：話すだけで情報を伝える難しさに気付く、聞く：聞き返すことにより情報が伝わりやすくなることを知る

14~15 回 担当者全員 合同ゼミ

◎―― 添付ファイル ――◎

アカデミックスキルズゼミ I 授業予定表  
(令和 2 年度アカデミックスキルズゼミ I 授業予定表.pdf)

アカデミックスキルズゼミ II (思考と発想のレッスン)

2020-S000009623-01

永田 潔文、大上 麻海(商学部)、道山 治延(法学部)、  
期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：演習  
授業時間割：後期：木・1 時限 試験時間割：定期試験なし

◎―― 概要 ――◎

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法 (アカデミックスキルズ)」を多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミ II では「思考と発想のレッスン」という事で、順序立てて考える習慣を身につける事や、新しいアイデアを得るための方法を学ぶ事に重点を置きます。また、この授業は異なる学問分野を専門とする 5 名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を学ぶ事ができます。

第 1 回目の合同ガイダンスの際に、受講生を 5 チームに分けます。それぞれのチームが 3 名の教員から 4 回ずつ授業を受けることとなります (第 2 回目から第 13 回目)。そこでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをゼミの参加者全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、それを今後の大学での学修に応用する力を身につけます。

第 14 回目と第 15 回目の合同ゼミでは、受講者全員が 1 つの教室に集まって、それまでに学んだアカデミックスキルズを実地に应用する課題に取り組みます。学期中の 2 回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎―― 到達目標 ――◎

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見を相手にわかりやすく述べる、グループで決めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協調して 1 つの課題に取り組む、等の方法を身につける。(技能)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を習得する。(技能)

2 回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(技能)

順序だてて考える習慣を身につける。(態度・志向性)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身につける。(態度・志向性)

◎―― 授業時間外の学習 (予習・復習) ――◎

かならず復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次回の授業で質問するようにしてください (90 分)。また、次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで (90 分)、授業に臨んでください。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

◎―― 成績評価基準および方法 ――◎

定期試験は行いません。第 2 回目から第 13 回目までの授業では、欠席の有無、ゼミでの発言の内容 (多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか) や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第 14 回目と第 15 回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑

関口 浩喜(人文学部)、吉田 秀幸(薬学部)

実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑応答内容、チームワークをチーム単位で評価します。

2 回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他の人の文献からの剽窃は大幅な減点になります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ 6 割、1 割、3 割とします。

◎―― テキスト ――◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎―― 参考書 ――◎

『福大生のための学習ナビ』(福岡大学 教育開発支援機構)

<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf>

『「言葉の力」育成の手引』(福岡大学 教育開発支援機構) <http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf>

その他、授業中に適宜、紹介します。

◎―― 履修上の留意点 ――◎

このアカデミックスキルズゼミ II は講義形式の授業とは異なり、参加する皆さんが主役となって作りあげてゆく授業です。担当教員

が講義する場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨むことが求められます。皆さん自身が主役の授業ですから、無断欠席は大幅な減点の対象となります。欠席する場合には授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい(次回の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であってもかならず次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認すること)。

なお、もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミⅠもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

## ◎――― 授業計画 ―――◎

### 回授業内容

#### 1 合同ガイダンス (担当者全員)

2~13「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は5チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2020年度アカデミックスキルズゼミⅡ 授業予定表」をWebシラバスの「添付ファイル」欄に添付しているので、参照してください。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。なお、5名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

関口(人文学部)：①一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか?：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。②一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか?：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。③友人ができないという悩み：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。④友人ができないという悩み：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。

永田(理学部)：①グループ学習のツール、ロール、ルールについて学ぶ。②グループで取り組む課題を探し、決める。議論の発散と収束の手法を学ぶ。③調査結果を発表し、課題解決に取り組む。KJ法を学ぶ。④課題解決に取り組んだ成果を発表する。

大上(商学部)：①読む：組織とはなにか ②調べる：組織で実際に働くとはどういうことか ③議論する：調べた内容について議論し意思決定する ④発表：プレゼンテーションを行う吉田(薬学部)：①命を育む：頭を柔らかくする。②命を守る：グループで考える。③命を長らえる：物事を多面的に捉える。④命を考える：発表し、討論する。

道山(法学部)：①読む/調べる：「できちゃった結婚」って何? ②意見を交換しよう：「できちゃった結婚」の何が問題? ③調べよう：世界の「できちゃった結婚」 ④まとめよう：グループで結論

14, 15 合同ゼミ(担当者全員)

## ◎――― 添付ファイル ―――◎

### 授業予定表 (木曜1限)

(ASゼミⅡ スケジュール 2020.xlsx)

## アカデミックスキルズゼミⅡ (思考と発想のレッスン)

須長 一幸、甲斐勝二、鶴田直之、紺田広明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：演習  
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

## ◎――― 概要 ―――◎

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法(アカデミックスキルズ)」を多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミⅡでは「思考と発想のレッスン」という事で、順序立てて考える習慣を身に付ける事や、新しいアイデアを得るための方法を学ぶ事に重点を置きます。また、この授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を学ぶ事ができます。

第1回目の合同ガイダンスの際に、受講生を4チームに分けます。そして、それぞれのチームが3名の教員から4回ずつ授業を受けるこ

とになります(第2回目から第13回目)。ここでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをゼミの参加者全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、それを今後の大学での学習に応用する力を身に付けます。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講者全員が1つの教室に集まって、それまでに学んだアカデミックスキルズを実地に応用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

## ◎――― 到達目標 ―――◎

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見を相手にわかりやすく述べる、グループで決めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協調して1つの課題に取り組む、等の態度や方法を習得する。(技能)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を習得する。(技能)

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(技能) 順序だてて考える習慣を身に付ける。(態度・志向性)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身に付ける。(態度・志向性)

## ◎――― 授業時間外の学習(予習・復習) ―――◎

かならず復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次回の授業で質問するようにしてください(90分)。また、次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで(90分)、授業にのぞんでください。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

## ◎――― 成績評価基準および方法 ―――◎

定期試験は行いません。

第2回目から第13回目までの授業では、欠席の有無、ゼミでの発言の内容(多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか)や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点と

2020-S000009623-02

実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
します。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑応答内容、チームワークをチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他の人の文献からの剽窃は大幅な減点となります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

## ◎――― テキスト ―――◎

## 植上 一希、藤野 真

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り

授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2020/07/22 3時限

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

◎----- 参考書 -----◎

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）

<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf>

『「言葉の力」育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）

<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf>

その他、授業中に適宜、紹介します。

◎----- 履修上の留意点 -----◎

このアカデミックスキルズゼミⅡは講義形式の授業とは異なり、参加する皆さんが主役となって作りあげてゆく授業です。担当教員が講義する場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢でのぞむことが求められます。皆さん自身が主役の授業ですから、無断欠席は大幅な減点の対象となります。欠席する場合には授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい（次回の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であってもかならず次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認すること）。

なお、もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミⅠもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎----- 授業計画 -----◎

## 回 授業内容

## 1 合同ガイダンス（担当者全員）

2～13 「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2019年度アカデミックスキルズゼミⅠ 授業予定表」を Web シラバスの「添付ファイル」欄に添付しているため、参照してください。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。なお、4名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

須長（科学哲学）：①レポートと感想文の違いを知る ②レポートを通じて思考を深める ③レポートは何のためにあるのかを考える ④レポートを作成する手順を踏まえる

鶴田（情報科学）：①開発の思考と発想：チームで考える ②開発の思考と発想：何を作るか設計する ③開発の思考と発想：作る工程を設計する ④開発の思考と発想：開発を管理する

甲斐（中国文学）：①歌謡曲を考える ②好きな歌を皆に紹介しよう ③好きな歌を皆に紹介しよう ④同じ歌を分析して、その良さを各自で分析報告

紺田（心理学）：①エビデンスのある評価を考える ②データを批判的に読み取る ③評価を体験する ④心理的な測定を通じて思考を深める

## 14, 15 合同ゼミ（担当者全員）

◎----- URL -----◎

moodle システムサービス

◎----- 添付ファイル -----◎

2020年度後期ASゼミⅡ予定表  
(calendar.pdf)

◎----- 概要 -----◎

本講義は1年生を対象に行う。

中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態に在るが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。

その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。

それをもとに、自立とは何か、職業とは何か、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

◎----- 到達目標 -----◎

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。（知識・理解）

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。（技能）

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。（態度・志向性）

◎----- 授業時間外の学習（予習・復習） -----◎

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと（毎回1時間程度）。

◎----- 成績評価基準および方法 -----◎

課題提出状況（4割程度）および定期試験の結果（6割程度）にもとづいて総合的に評価する。また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを多く実施し、その積極的な参加状況も評価に加える。

なお、出席状況や受講態度も考慮する。

◎----- テキスト -----◎

植上一希・寺崎里水・藤野真『大学生になるってどういうこと？ 学習・生活・キャリア形成』大月書店、2014年。

◎----- 参考書 -----◎ 講義の中で随時紹介する。

◎----- 履修上の留意点 -----◎

適宜資料を配布する。それらを常に見返すことができるようにファイリングを怠らないようにすること。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

◎----- 授業計画 -----◎

第1回：オリエンテーション - 大学生になるってどういうこと（教科書1章）（植上・藤野）第2回：大学生活・大学での学習①～どのような大学生になるのか、なぜ大学生になったのか（教科書2・3章）（植上・藤野）第3回：大学生活・大学での学習②～大学生活・大学での学習のリデザイン（植上・藤野）第4回：大学生活・大学での学習③～大学生の学びの特質（教科書4章）（植上・藤野）第5回：福岡大学の支援体制①～大学での学習を支援する教務課（植上・藤野）第6回：大学生活・大学での学習④～大学での学習（教科書6章）（植上・藤野）第7回：大学生活・大学での学習⑤～大学の生活（教科書5章）（植上・藤野）第8回：先輩に聞く大学生活の送り方、大学での学び方（植上・藤野）第9回：福岡大学の支援体制②～学生生活を支援する学生課とHDセンター（植上・藤野）第10回：キャリアを考える①～ブラック・バイト問題と労働法を学ぶ（植上・藤野）第11回：キャリアを考える②～なりたい自分になる（教科書8章）（植上・藤野）第12回：福岡大学の支援体制③～キャリア形成を支援する就職・進路支援センター（植上・藤野）第13回：キャリアを考える③～大人になるということ（植上・藤野）第14回：福岡大学の支援体制④～キャリア形成を支援するエクステンションセンター（植上・藤野）第15回：まとめ（植上・藤野）

福大生のためのキャリアデザイン（大学生活を設計する）

2020-S000009621-02

植上 一希、藤野 真

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：2020/07/22 3時限

◎----- 概要 -----◎

本講義は1年生を対象に行う。中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいますが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的な位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。

それをもとに、自立とは何か、職業とは何か、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

◎----- 到達目標 -----◎

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。（知識・理解）

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。（技能）

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。（態度・志向性）

◎----- 授業時間外の学習(予習・復習) -----◎

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと（毎回1時間程度）。

◎----- 成績評価基準および方法 -----◎

課題提出状況（4割程度）および定期試験の結果（6割程度）にもとづいて総合的に評価する。また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを多く実施し、その積極的な参加状況も評価に加える。なお、出席状況や受講態度も考慮する。

◎----- テキスト -----◎

植上一希・寺崎里水・藤野真『大学生になるってどういうこと？ 学習・生活・キャリア形成』大月書店、2014年。

◎----- 参考書 -----◎ 講義の中で随時紹介する。

◎----- 履修上の留意点 -----◎

適宜資料を配布する。それらを常に見返すことができるようにファイリングを怠らないようにすること。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

◎----- 授業計画 -----◎

第1回：オリエンテーション - 大学生になるってどういうこと（教科書1章）（植上・藤野）第2回：大学生

◎----- 授業計画 -----◎

第1回：オリエンテーション - 大学生になるってどういうこと（教科書1章）（植上・藤野）第2回：大学生

活・大学での学習①～どのような大学生になるのか、なぜ大学生になったのか（教科書2・3章）

（植上・藤野）第3回：大学生生活・大学での学習②～大学生生活・大学での学習のリデザイン （植上・藤野）第4回：大学生生活・大学での学習③～大学生の学びの特質

（教科書4章） （植上・藤野）第5回：福岡大学の支援体制①～大学での学習を支援する教務課 （植上・藤野）第6回：大学生生活・大学での学習④～大学での学習（教科書6章）

（植上・藤野）第7回：大学生生活・大学での学習⑤～大学での生活（教科書5章） （植上・藤野）第8回：先輩に聞く大学生活の送り方、大学での学び方

（植上・藤野）第9回：福岡大学の支援体制②～学生生活を支援する学生課とHDセンター （植上・藤野）第10回：キャリアを考える①～ブラック・バイト問題と労働法を学ぶ （植上・藤野）第11回：キャリアを考える②～なりたい自分になる（教科書8章） （植上・藤野）第12回：福岡大学の支援体制③～キャリア形成を支援する就職・進路支援センター

（植上・藤野）第13回：キャリアを考える③～大人になるということ

（植上・藤野）第14回：福岡大学の支援体制④～キャリア形成を支援するエクステンションセンター （植上・藤野）第15回：まとめ （植上・藤野）

## 福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか

朔 啓二郎

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業形態：講義  
授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

### ◎―― 概要 ――◎

皆さんがこれから4年間（6年間）を過ごす「大学」とは、一体どんな場所なのでしょう。また、福岡大学はどんな大学なのでしょう。この授業は、新生の皆さんを対象に「大学」という魅力ある世界へいざなう、「大学入門」の科目です。

授業は大きく前半と後半とに分かれます。まず、前半の授業では「福岡大学でいかに学ぶか」をテーマに、大学での学習の姿勢と方法とについて学びます。大学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域全体が一体となって共に成長・発展することを目指します。「Rise with Us」。この言葉に、その思いを込め、次代を担い社会を支える有為な人材になるように、まず、大学生としての学習の基本を身につけてください。

後半の授業では「福岡大学を学ぶ」をテーマに、福岡大学の建学の精神や教育研究の理念をはじめ、福岡大学の組織、地域社会における役割、日本・世界への貢献などを学びます。この後半の授業を受けることを通じて、福岡大学に関する知識を身につけ、福大生であることの意味について考えてください。

前半・後半ともに、グループ学習を行なう機会を多く設けます。他の参加者と協調しながら、みずからの意見を練り上げ、その意見を明確な言葉で表現するという姿勢と能力とを身につけてもらうためです。

なお、この授業では第1回目に朔学長の講義をじかに聴く機会を設けています。福岡大学の歴史と理想とする教育や研究について、学長が自らの熱い想いを語ります。

### ◎―― 到達目標 ――◎

大学での授業を受けるために必要な事柄（ノートのとり方、授業における積極的な姿勢等）が身につく。（態度・志向性）授業の内容を要約することができる。（技能）自分の意見を他人に明確に伝えること

ができる。（技能）福岡大学の歴史について説明することができる。（知識・理解）

福岡大学の主要な組織とその役割について説明することができる。（知識・理解）

福岡大学が地域や社会に対して果たす役割について説明することができる。（知識・理解）

### ◎―― 授業時間外の学習（予習・復習） ――◎

- ・授業内容に関連する事項を講義の前にあらかじめ調べる。（60分）
- ・ノートや講義時に配付された資料を読み返すこと。（60分）

### ◎―― 成績評価基準および方法 ――◎

定期試験のない科目です。毎回の授業でミニッツペーパーを提出してもらいます。また、授業期間中にレポート提出を3回課します。ミニッツペーパーでは、各授業の内容を正確に理解しているかどうかを5段階で評価します。またレポートについては、授業内容に基づき、課題について十分に資料を調べ、その上で自分の考えをきちんと記述しているかどうかを評価基準とします。ミニッツペーパーとレポートの記述内容を総合的に評価し、この授

2020-S000009624-01

実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
業の成績とします。評価の比重は、ミニッツペーパーが60%、3回のレポートが30%、授業内での積極的な態度と発言が10%です。

レポートは必ず提出しなければなりません。レポートを提出しないと不合格になることがあります。また、出席してグループ学習に取り組むことが必須です。そのため、欠席が3回をこえた場合には不合格になることがあります。

### ◎―― テキスト ――◎

- ・講義で配付する資料  
配付資料がある場合はFUポータルにも掲載しますので、万一欠席した場合には、かならずポータルから配付資料を入手してください。資料がないと課題や次回の授業の準備ができなくなることがあります。

### ◎―― 参考書 ――◎

- ・『福大生のための学習ナビ』福岡大学、2020年学習ナビは、新生には入学前に郵送、あるいは入学時に配付されます。  
その他、各回の講義に関連する書籍等があります。必要に応じて、それぞれの担当者が講義の中で紹介します。

### ◎―― 履修上の留意点 ――◎

この授業は「オムニバス形式」で実施します。オムニバス形式とは、複数の先生方の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生はそれぞれ異なる内容の講義を行いますので、1回でも欠席すれば、その内容の講義を全て聞き逃してしまうことになり、欠席しないようにしてください。

また、講義内容を筆記するノートの他に、資料を整理するファイルケースやバインダー等かならず準備してください。

この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない、など）を守って受講しましょう。

### ◎―― 授業計画 ――◎

【イントロダクション】第1回：福岡大学の歴史とこれからの展望を語る（朔啓二郎福岡大学長）授業のガイダンス  
（檜垣教務部長・香野共通教育研究センター長）（4/14）

【福岡大学でいかに学ぶか】第2回：「福まな」の学び方  
（須長教育学修支援室長）（4/21）第3回：「大学での学問－学習ナビを活用しよう－」  
（有岡教育開発支援機構副機構長）（4/28）第4回：共通教育を学ぶ意味  
（香野共通教育研究センター長）（5/12）

第5回：大学での学問と図書館  
（永星図書館長）（5/16）第6回：大学の外国語教育を通して学ぶべきもの  
（有馬共通教育研究センター長補佐）（5/19）

※第1回レポート課題（第2回から第5回の授業が対象）第7回：グローバル化とグローバル人材育成  
（三島国際センター長）（5/26）第8回：「大学での課外活動の意義」  
（梅井学生部長）（6/2）第9回：エクステンション教育の意義－福岡大学における正課外教育としての役割－  
（北坂エクステンションセンター長）（6/9）

※第2回レポート課題（第6回から第9回の授業が対象）

【福岡大学を学ぶ】第10回：福岡大学の教育と役割  
（加留部副学長）（6/16）第11回：大学における研究  
（野田研究推進部長）（6/23）

第12回：スポーツと健康と地域社会  
（田中副学長）（6/30）第13回：福岡大学のICTサービスを知る・使う・役立てる  
（末次情報基盤センター長）（7/7）第14回：大学とキャリア形成－就職・進路を考える－  
（蓑輪就職・進路支援センター長）（7/14）

※第3回レポート課題（第10回から第14回の授業が対象）

第15回：まとめ－大学生としての自分を確認しよう－  
（檜垣教務部長）（7/21）

※檜垣教務部長と香野共通教育研究センター長は、自身の講義担当日に加えて、他の講義担当者の授業日にもグループ学習のコーディネーター役等として参加し、全15回の授業を担当注）担当者の都合により、日程が変更になることがあります。